

家の光

〈特集〉もしものときは、わたしたちの出番！
最強の防災術55 (P24~P45)

- 〈地域情報版〉新発想で進めるみんなの防災活動
- 〈農ライフのすすめ〉台風・豪雨から作物を守る
- 〈やさしいハンドメイド〉防災プレスレット など

2018年7月号の防災記事のご案内です。
詳しくは本をご覧ください。

「家の光」の購読をご希望の方は、
最寄りのJA窓口へお問い合わせください。

表紙の人
長瀬 智也さん



Iceno Hikari



豆知識いろいろ

防災プレスレット



丈夫なロープ「アウトドアコード」で作る、カラフルな防災プレスレットです。ほどくと洗濯ひもなどに変わったり、留め具が助けを呼ぶホイッスルになっていたり、もしものときに使える機能を備えています。コードを編んで作るので、特別な道具は必要ありません。制作時間は約30分です。

非常持出品、ヘルメット、飲料水、ポリタンク、簡易トイレ等は玄関付近に保管して即座に持ち出せるようにしています。また、備蓄品として、レトルトのご飯やカレー、缶詰類、チョコレートや飴、ポカリスエットの粉末、緑茶、昆布茶、ちりめん干しを常備しています。特に、味噌は優れた調味料です。様々な料理に使える万能調味料です。

平成23年3月11日午後2時46分東日本大震災が発生しました。この富士市においても東海地震がいつ起きてもおかしくない昨今、突然震度8強以上の揺れが起きたらと思うと身が震えます。一瞬の判断が生死をわける事もあり、日頃からその時の行動をイメージし、準備しておくことが必要です。原田支部女性部では、地域の災害訓練に積極的に参加しています。消火訓練、三角巾による手当の方法、竹竿2本にTシャツ5〜6枚を通して簡易担架を作り怪我人を搬出する方法、ストレッチ解消のストレッチ体操、AEDを使った心肺蘇生法を学びました。

フラワースタンドにバケツを入れ、発砲スチロールを丸切り座台にして完成。



●簡易トイレ

私達女性部は、防災意識の統一や命の大切さ、尊さを交換し合い、教え合っただけで地域に反映させ、安心して暮らせるように今後も努めていきたいと思っています。

温かい食事を提供する炊き出しは、人との会話を弾ませ、地域との絆ができて心のケアにも繋がる重要な活動です。平成24年に女性部の復興支援視察研修旅行として福島県を訪れました。津波の被害から1年経った当時でも、広範囲に亘り住宅の土台がさらされ、海辺には金属やガラス片が大量に刺さったままの状態でした。多くの人が生活していたはずの街並みも、人影もなく、見るに堪えない姿を目の当たりにし、車窓から眺める景色に涙があふれ、思わず手と手を合せていました。

平成25年に、女性部発表大会で
原田支部の佐野洋子さんが発表した
『東日本大震災に学び命を守る』の一部をご紹介します。

